

# 学習指導案の形式（例） 中学校技術・家庭科

第○学年○組 技術・家庭科(○○分野) 学習指導案

---

令和○年○月○日(○) 第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

## 1 題材名 ○○○○○○○○○

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。学習指導要領の各項目に示される指導内容を中心に書く。技術・家庭科での項目とは、「A～」の内容の中の「(1)～」である。

## 2 題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～について理解する。～について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。） [知識及び技能]
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。） [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：④～の実現（構築）に向けて、適切かつ誠実に～の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。⑤よりよい生活の実現に向けて、～について、問題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして生活を工夫し、実践しようとする。） [学びに向かう力、人間性等]

◇学習指導要領の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。  
 ◇(1)～(3)の文末には、それぞれの〔資質・能力名〕を明記する。  
 ◇生徒の立場で書く。 ※(1)～(3)をまとめて一文で表記してもよい。

## 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例：～について理解している。～理解しているとともに適切にできる。～できる技能を身に付けている。	例：～課題を設定し、～するなどして課題を解決する力を身に付けている。	例：④～を工夫し創造しようとしている。 ⑤～を工夫し実践しようとしている。

◇「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準の文末は、育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末を「～している。」として作成する。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、「粘り強さ、自らの学習の調整、④技術を工夫し創造しようとする態度・⑤生活を工夫し実践しようとする態度」、教科の目標(3)や学習内容等に応じて工夫する。

## 4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1	○例：～について理解することができる。 ○例：～について調べる。	○～について理解している。 ○～を説明できる。		◇「3 題材の評価規準」の観点と一致させる。 ※番号でつないで書いてもよい。  ○～改善しようとしている。
	2	○例：～について話し合う。 ～について考える。  ◇ねらいを明確にして書く。 ◇生徒の立場で書く。		○～について問題を見いだして課題を設定している。	

## 5 指導上の立場

- 題材観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

◇題材観…本題材で身に付けさせたい資質・能力、とその特徴等を書く。  
 ◇生徒観…本題材に関する興味・関心、資質・能力の状況、既習の実践的・体験的活動等について書く。本題材において目指す生徒の姿等について書く。  
 ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、生徒のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。  
 ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に書き、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができる。

- ◇「2 題材の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ◇生徒の立場で書く。	○ ◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。  (2) 例：～について話し合う。  ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	○ めあて ◇生徒の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。  ○例：～することで、～できるようにする。  ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手だて ・生徒が対話的に学習を進めるための手だて ・生徒が学習を深めるための手だて ・生徒一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手だてを書く。	◇本時の目標と整合した具体的な書き方を示す。抽象的ではなく、実際可能なレベルで具体化する。 ◇評価の場面は1、2箇所絞る。 ◇評価規準に合わせて、評価の観点・項目を明記する。 ◇評価方法を具体的に書く。
3	○	○例：～している。 [評価の観点] (評価方法)
4	○ まとめ ◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
5	○ ◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿 例：～している。

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。